

脳神経外科

【スタッフ】

令和5年は医師3名体制で変更ありませんでした。4月からは藤井医師の後任として田代医師が常勤で勤務しております。田代医師は脳血管内治療、脳梗塞急性期の血管内治療に活躍しています。本年も、日本脳神経外科学会脳神経外科専門医2名などの要件を満たすことで、一次脳卒中センターに認定されています。

学会発表等は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、ありませんでした。

部長 中村 隆治 (2010.4～)

医長 尾中 貞夫 (2012.4～)

医師 藤井 裕太郎 (2022.4～2023.3)

医師 田代 洸太 (2023.4～)

【概要】

外来は予定手術日の木曜日以外毎日行っており、木曜日でも可能であれば対応いたします。急患にも対応しておりますのでご紹介ください。

脳神経外科対象疾患は、脳血管障害、脳腫瘍、外傷、機能的疾患、先天奇形など、多岐に渡っております。小児科の閉科により、先天奇形などは他院での治療をお願いしております。

令和4年よりデジタル式脳波計に変更し、脳波をデジタルにて判読することが可能になり、以前より正確に診断可能となりました。

近年、開頭手術症例は減少傾向にあり、血管内治療や放射線治療の症例が増えています。

特に脳梗塞が増えており、初期治療として発症後4.5時間以内であれば、t-PA (Tissue-Plasminogen Activator: 組織プラスミノゲン活性化因子) の投与を行っています。脳主幹動脈の閉塞であれば血栓回収の適応となり、血管内治療を行っております。本年は t-PA 投与が3例、血管内治療が14例ありました。

また、適応があれば頸動脈内膜剥離術や内頸動脈ステント留置などにも積極的に取り組んでおります。本年はステント留置が2例、内膜剥離術は1例ありました。

下関市は高齢化率が高く、物忘れを主訴に受診される患者さまが増加しております。治療可能な認知症として慢性硬膜下血腫や正常圧水頭症などが知られており、当科でも治療にあたっています。水頭症シャント手術後は、物忘れや歩行障害の改善がみられます。転倒の多い高齢の方は、ぜひ一度、頭部 CT 検査を受けることをお勧めします。

アルツハイマー型認知症やレビー小体型認知症は、認知機能悪化が徐々に進行し、自宅での生活が困難になります。医師だけの努力では解決できないことも多く、ケースワーカーなど他職種と協力して対応しております。

脳卒中後の痙縮に対しても、ボトックスやバクロフェンなどの使用により ADL (日常生活動作) 改善につなげたいと考えておりますのでご相談ください。

【診療実績】 令和 5 年 1 月～12 月

1. 入院患者数：306 名
2. 手術症例数：50 例

内訳（単位：例）

脳動脈瘤クリッピング（破裂 7、未破裂 1）	8
高血圧性脳内血腫除去術	5
内頸動脈血栓内膜剥離術	1
外傷性急性硬膜下血腫除去	2
慢性硬膜下血腫	20
水頭症（脳室腹腔シャント術等）	4
STA-MCA（浅側頭動脈－中大脳動脈）吻合術	2
その他	8

3. 血管内治療：15 例

内訳（単位：例）

脳動脈瘤コイル塞栓術（破裂 0、未破裂 1）	1
脳梗塞急性期 血栓回収術	13
CAS（頸動脈ステント留置）	1